

平成 27 年度第 1 回松島町総合計画審議会

摘 録

■開催日時 平成 27 年 6 月 2 日（火）
10 時 00 分～11 時 30 分

■場 所 松島町役場 3 階 大会議室

■出席者

委 員：宮原育子会長、福田正朗職務代理者、君島智子委員、大宮司光生委員、平秀毅委員、
寺田賢二郎委員、渡邊宏委員、相澤多恵子委員、飯川洋一委員、磯田悠子委員、内
海勝洋委員、内海陽一委員、岩井善美委員、小畑隆保委員、後藤澄子委員、遠山勝
雄委員、蜂谷雅美委員、林裕志委員、朱二太委員

欠席者：阿留多伎真人委員

事務局：亀井企画調整課課長、小松震災復興対策監、千葉まちづくり支援班班長、
松村主査、金田主事
中央コンサルタンツ(株)

■次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
松島町長期総合計画の体系について……………【資料 1】
- 4 報告事項
住民アンケート調査結果（概要版）について……………【資料 2】
- 5 閉会



■総合計画審議会の開催状況

■議事要旨

1 開会

(事務局)

- ・開会のあいさつ

2 あいさつ

(会長)

- ・今回の総合計画は松島の将来のビジョンを作成していくことになる。震災の復興と地域の色々な変化を盛り込みながら良い形で計画ができる様、今年度の会議をしていきたい。

3 協議事項

(事務局)

- ・資料1の説明
「松島町長期総合計画の体系」について

(会長)

- ・基本目標の「歴史・文化の継承と創造」を基本理念として置き換え、新たに将来像を設定する案が出されている。意見、質問はあるか。

(委員)

- ・「歴史・文化の継承と創造」が将来像から基本理念に格上げになるということは、過去の歴史を知りながら今を知り、将来を見据えるということでは非常に重要なことである。

(委員)

- ・基本理念の設定方針の中に「人口の急変、超高齢化の時代を迎え」という文言があるが、なぜ少子化という言葉を使わず急変という言葉を使用したのか。

(事務局)

- ・20～30歳までの女性の人口の減少率が県内で、2番目に激しいこともあり、人口急減という意味で「急変」と表現している。

(委員)

- ・人口が減少していく中で松島町における農業、漁業、山林業などの産業の衰退の程度についてどのように捉え、次期の基本理念になろうとしている、「歴史・文化の継承と創造」とどのようにつなげていくのか。

(事務局)

- ・産業の衰退については、産業の動向ということでお話しする文面が出てくるかと思うが、将来にわたってはある程度のマイナス方向は考えられうる状況にあらうかと思う。次回人口の動向も合わせてお伝えする。

(委員)

- ・日本三景の一つという表現があるが、日本三景は1つ2つと数えるのもではなくて、この3つを日本三景と称するという表現しかないのではないか

(会長)

- ・日本三景はそもそも一つであるというご意見で、書き方に注意して頂きたい。

(委員)

- ・将来像を設定するにあたってどのような人口、経済フレームの検討がなされているのかそれが分からないままに、基本理念や将来像の設定をしていくというのはわかりづらい部分がある、できるだけ早くフレームを提示して頂きたい。

(事務局)

- ・地方創生の戦略プランを作成しておりフレームを再構築している所であったため、今回は提示できる段階ではなかった。次回にお伝えする。

(委員)

- ・今回出された計画の基本理念、将来像と計画の柱の設定方針はこれで素晴らしいのではないと思うが、新しい将来像を実現するための施策について考えていく際、町の本当の個性は何かということを十分に検討して頂きたい。町は歴史と産業というものが出来上がるまでに、あるいは歴史と文化を作り上げていく上には人々の力や景観や色々な諸産業が関わってこそ、作り上げていくものである。
- ・国際観光だけが松島ではない。国際観光を支えていく産業、要するに農業、漁業、山林関係、商工業、その様な人たちが、互いに交流し合うことによって松島の経済力を上げていくことが必要である。
- ・この歴史・文化の継承と創造というのは産業の活性化のもとに行われるものであり、単に今まであったものを利用するだけのものではないというふうに今回作られた、この計画の基本理念、将来像と計画の中で勉強させられた。基本理念の文章化を考えていきたいということがあるが、行間の中にそういった思いを入れていくことが町民の要求している、純真な、健康福祉の町、安心安全な町、子育て教育の町ということにつながっていくのではないかと感じた。委員の皆様からも意見を頂戴できればと思う。

(職務代理者)

- ・第6章の産業、行政、コミュニティに関するテーマ、農林、水産、商工、住民の立場と、行財政や広域行政は全く立場が異なる。
- ・6章は産業振興と捉えているため、6章に観光業を入れていただきたい。また、6章に行財政、広域行政を入れるのは疑問である。

(委員)

- ・区分の話になるとまた難しい。もう少し進んでから組み直しをできるのではないか。

(会長)

- ・ご意見は色々言っていただいて、それを検討委員会等に持っていったら良かった方が良いでしょう。ここで決定するという事ではないが、意見を頂けるとありがたい。

(委員)

- ・この計画を作成するにあたり、地方自治の基本は住民の自治である。また、地域コミュニティを大切にしていかななくてはならない。これらは、今日示された計画の基本理念に入っているのではないかと受け止めている。設定方針の中に自立したまちづくりというのをはっきりと謳っているし、地域コミュニティに関しては、「町民・事業者・行政の各主体が共通の認識のもと」と協働していくことを謳っている。

(委員)

- ・策定検討委員会では、松島全体として人が住みたくなる。訪れる人も自分たちが誇りを持って住みたくなる。単なる住むだけでなく、そこで働く場があるということで、松島の海岸周辺だけではなく全体が産業の集積の様な形で関連し合えれば良いという議論がなされている。

(委員)

- ・地域間の交流、産業間の交流を考えた場合、観光業だけが別枠ではどうかと思う。今までは、観光は海岸という意識が町民にあったが、海岸地区で産直で野菜を売っても良いが、今後は、北部の農家の方が作った野菜を漬物などに加工したり、観光客に食べてもらうなど、農業も農産物を通して観光客に来ていただけるような形で貢献でき、ビジネスにつながることもある。松島というのは一大消費地と考えた場合に費用や手間を掛けなくても地元でおいしいものを出せば、そこで消費が発生する。農業と観光が、産業面で結びついていくと魅力のある松島になるのではないかと。

(委員)

- ・策定検討委員会でも活発な意見が出ていて、松島海岸に観光が集中しているということだが、実際は1、2時間で帰るとというのが現状である。松島町全体を見てもらうようなことをもっと考えていくべきで、観光するのに1日掛かるような観光の仕方を検討していく必要がある。
- ・電車で松島に来た観光客向けに二次交通を整備する必要がある。

(委員)

- ・観光というのはその地域の宝を見せることである。観光業は6章に入れ込み、観光と観光業を区別するべきである。

(委員)

- ・私も同感で、松島の特質は観光だと考えている。その観光を農業、観光業などが下支えている。私たち住民もボランティアも、観光を下支えているものとして、6章で全員がコミュニティとして団結する必要がある。そうすることで、農業だけ、観光業だけ

といったものではなく、松島の特性として与えられた特別な財産として町民が輝けるステージになりうると思う。

(職務代理者)

- ・私も同感で、5章を国際観光とし、産業としての観光業は6章に含めるべきである。さらに末節が良いが、地域産業、産業小売を加えていただきたい。それぞれ自然発生的な関わりがあると思うが、町のレベルを上げ、皆さんが魅力を感じて松島に住み、松島に住んでよかったという誇りを感じるためには、理想の産業形態を目指す必要がある。
- ・まずは、松島の現状に沿った産業分野のレベルアップを図ることが大切だということである。今の産業の人材も無駄にせず、それを基本として育てていけばよい。将来はバランスが変わり、農水商工業が少なくなり、ほぼ観光だけで食べられるという時代もあるかもしれない。10年後にどれほど変わるかわからないが、そういった意味では1ページの日常の暮らしに関わるテーマが、行政に対する課題の解決にならないように、もう少しレベルの高いビジョンを背景に据えた将来像にしていただきたい。

(委員)

- ・今回の総合計画の特徴は自治とか自立などを一緒に考えていく「協働」という視点が非常に重要である。明確にこの計画の中に盛り込んでみてはどうか。今まで皆さんが議論されている課題や問題を一緒に考えていく仕組みとしての協働をベースとして取り込みたい。基本理念の「歴史・文化の継承と創造」は非常にわかりやすいが、悪く言えば中に浮いたような様でリアリティがないテーマで、逆に言えば非常に時間軸をもったテーマでもある。そういうテーマを協働していく、施策に書かれているようないろんな課題を解決していく。その前提、ベースとしての協働というようなテーマが盛り込まれると良いのではないか。

4 報告事項

(事務局)

- ・資料2の説明
「住民アンケート調査結果」について

(委員)

- ・住んでいる方々は具体的な自分たちの生活を見つめて生活しやすいことを望んでいる。特に「子育て現役世代は子育て・教育のまちが最も多くなっている」という捉え方については、近隣の2市3町、仙台市などの子供たちの教育の質が高く、松島の子供たちはその中で競わなければならなくなる。そうすると、教育委員会は教育の質を高める必要があり、そこには教師の指導力や子ども達の学習力、地域の子育て力など、様々なことが絡んでくる。松島に中学校は一つしかない。したがって、塾に行かなくても一高や二高に進学できる程の意気込みで教育をする必要がある。

(会長)

- ・アンケートの結果として、年代ごとに将来像として必要なことが異なる。特に松島での子育てを望む人は、観光客が多いだけでなく、松島に住んでいることが一つのステータスとなるような質の高い暮らしができる町というイメージを持っている。しかし、農業や漁業など各産業の強みがあり、たくさんの人が交流する場であるにも関わらず、連携がされていないためそれが町全体の暮らしや町民の人たちが認識する町と一致しない。大変恵まれた地域に住んでいるという誇りと、それを子子孫孫まで伝えていく責務が伝わると良い。
- ・各観光地では、観光客に農産物や人などの地域資源をどのように紹介していくかが一つの大きな売りになっている。松島ではそれがあまり見えず、外に目が向いている状態である。町民の方も買い物は利府に行った方がいいと思っている。本当にたくさんものがあるにも関わらず、松島の外に目が向けられている状態の暮らしがずっと根付いている。そのことを住民や、各主体の人たちが意識をしながら、総合的に松島の質を高めていくということをこれからの目標にすることは本当にいいことである。

(委員)

- ・資料1の計画の柱について、災害や近年増発する自然災害を受け、現行の第1章に含まれている「防災分野」が新たに章立てされているが、これはアンケート結果を反映しているのか。

(事務局)

- ・アンケート結果だけでなく、各委員会でも一つの章として特出させるべきという意見が出たためこのような形にした。

(委員)

- ・日常の暮らしに関わる要素を求める意見が多く、その中の一つに安全・安心なまちが入っているが、防災や災害に対する備えは非日常に対する備えであり、日常の暮らしも入るが、平時から有事の際にどのように備えておくべきかという視点が必要になる。そういう意味ではソフト的な施策といえる。今の1章の防災では、ハードとソフトが一緒になっている。したがってハード面は公共事業で粛々とする。そして住民が災害時にどのように備えるかは気持ちの問題である。そこをどのように結ぶかも重要だと思う。協働が日常的に行われていれば有事の際の対策法も検討が可能である。

(委員)

- ・策定検討委員会の中では、有事の際だけでなく、基本的には子どもや高齢者を含めて日常的な安心・安全が必要であり、そのためには日常的なコミュニティづくりが重要だという話が活発にされている。

(委員)

- ・将来像の設定をするにあたり、アンケート調査、検討委員会、プロジェクト等の会議の意見を参考にしているとのことだが、それらの意見をどのように取り入れたのかという

背景を提示することにより、委員自身の意見がどのように反映されているのかが分かる。そのような意識が高まると住民自身が生活の主体者であり、松島で生活していくという意識がさらに深まる。アンケート結果にも、望ましい10年後の将来像では「子供から高齢者まで誰もが安心して暮らせるまちづくり」が求められていることがわかるので、このようところが反映されるとさらに良いのではないか。

(委員)

- ・ 専業農家は畑の面積を増やしているが収入は一に増えていないのが現状である。
- ・ カキの養殖については高齢化で従事者が年々減少している。震災を受けた他の地区では国から支援を受け共同で牡蠣やのり養殖をグループで行っている。松島は震災の影響がそれほど大きくなかったこともあって、共同ではなく個人経営のため規模が小さく、松島のホテル、旅館にカキを納めている状態である。これから10年後を考えた場合、農業や漁業に関して不安視を持っている。今後は観光に絡めた農業、漁業を考えていきたい。

(委員)

- ・ 最近島の松枯れが目立っておりどこまで枯れていくのかとても心配であるため、早急に対策をしていただきたい。
- ・ 福祉事業が見直され施設は立派になっているが、在宅介護をしている方も多くいる。新事業で何か対策ができないか。

(委員)

- ・ 一つ一つの取り組みについては思い切った計画をしない限りは、松島町は進展しないのではないかなと思っている。先ほどの在宅介護の件だが、施設に入居できる方はいいが、費用が掛かるため入居できない方もいる。そのような方を見ると何とかしてあげたいと常に思っているため、町で何か対策を考えて頂きたい。

(委員)

- ・ 5章の広域行政を促進していくとのことだが、ごみ問題など以外に、どのようなことが広域行政の促進があるのか。
- ・ 防災無線が各地にあるが、聞きづらい、聞こえないという箇所が半分以上ある。個別に無線機を入れてそれで災害の情報をいち早く提供し、その他の情報も提供を行っていただきたい。
- ・ コミュニティが薄らいできていると言われている。社会福祉協議会で地域福祉推進協議会を自由行政区で立ち上げており、そこでコミュニケーションを図ろうとしている。自宅を訪問するなどもあるが、まずコミュニケーションを図るために各行政区で様々なイベントを行っている。地域住民が集まれる機会を多く設け、助け合の精神が出ると良いと思っている。これらには費用が掛かるので町から援助を頂ければと考えている。また、住民行政区の区長などと情報を緊密にし、これからの松島の発展に少しでも役立てれば良いと考えている。

(委員)

- ・先程の意見にもあったが観光と観光業は異なる。松島町にはサラリーマンも多く住んでいるため、そのことも考慮していく必要がある。町のPRや行政区の方も重要だが、松島には様々な業種の方がいることを念頭に置く必要がある。
- ・松島町の観光は海岸地区だけではなく、他にも素晴らしい場所があるが（明治潜穴、元禄潜穴など）それを活用していないのが現状である。観光業が海岸とその他の観光地をうまく合わせる方法を考えることが必要である。松島には駐車場があるが満車であることが多く、また、海岸周辺の観光地の看板はあるが海岸以外の観光地を案内する看板はないなどの問題があるので対応が必要である。
- ・鹿児島に旅行に行った際、どこで降りてもいい観光バスがあった。金額が決まっており途中で降りても次のバスが25分間隔で運行している。このようなバスは松島にはない。例えば、磯崎には西の浜の貝塚などの観光地がある。観光バスがあれば新しい発見ができる。
- ・松島には7つの駅があり、土地もあるが人口が減っていく。電車通も良いので松島の土地を買って家建てたらどうかと仕事でPRはしたが、ほとんど建てる人はいない。松島の住民が出て行ってしまふのが現状である。観光バスなどをうまく使っていったらもっと新しい発見ができるのではないか。

(会長)

- ・一ぶる仙台も当初はお客が付くかどうか不安視されていたが、今では定着し利用の度合いが高まっている。松島でも同様のものがあれば良いと思う。

(委員)

- ・基本理念の設定方針や将来像の設定方針をしっかりと噛み砕いて文章化し、それを要約しながらまとめてほしい。第1章から第6章まで、どのような組織が何を具体的にに取り組み、何を生み出していくのか。縦だけでなく横の連携をしっかりと結んで欲しい。縦横の行政のつながりをしっかりと捉えた形の中で、町民が持っている色々な組織をいかに交友させていくか。いかに効率的に働かせていくか。そして、いかに松島が経済的に豊かになって町民たちが胸を張れるかを具体化して頂きたい。

(委員)

- ・素晴らしい意見が出ているが具体化するのはなかなか難しい。実現可能なことと住民の要望というのは大きく差があるので、どのように歩み寄るかが問題となってくる。今の施策の中ではどのように近寄らせるかという妥協点を見出すしかないのではないか。

(会長)

- ・審議していく仕組みに関しては、この審議会だけではなく各庁や若い人たちの検討委員会もあり、様々なレベルでの話し合いの中から、一つの柱というのが出てくるのが理想である。それぞれ委員会等からの意見を取り入れ事務局にまとめて頂きたい。

4 閉会

(事務局)

- ・以上で平成 27 年度第 1 回松島町総合計画審議会を閉会する。(終了)